

## 国際戦略基本方針

琉球大学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である Tropical Marine, Medical, and Island Sciences (TIMES : 熱帯島嶼・海洋・医学研究) (以下、「TIMES」という。)の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指している。(参考資料：第3期中期目標前文参照)

本学の長期ビジョンの実現に向けて、第3期中期目標・中期計画におけるグローバル化の達成及び第3期中期目標期間から第4期中期目標期間を円滑に始動するため、〔基盤となる事項〕及び〔5つの施策等〕を設定する。これらに取り組むことにより、

- ・国際共同研究の推進と拡充
- ・派遣・受入れ留学生数の増加
- ・大型外部資金の獲得

等の成果・効果が期待される。

## 〔基盤となる事項〕

- ・本学の教育研究の強みを国際的に展開するため、本学が中核となって既存のネットワークを基盤としたグローバルネットワークを構築する
- ・地域社会と国際社会に貢献することのできる資質、知識、技能を有する「琉大型グローバルシティズン」育成の強化
- ・専門職の拡充や教職員を活用した組織的な取組等を軸とした運営組織体制及び連携機能の強化

## 〔5つの施策等〕

## (1) TIMES における国際共同研究の促進

他大学との差別化を明確にするために琉球大学の特性を活かした学際的な研究を推進する。特に沖縄が抱える研究課題を大学間コンソーシアムの共通認識とし、研究課題のグローバル化と研究者同士のコミュニティーを創成する。

- 1) URA を活用した熱帯島嶼・海洋・医学研究等の分野における大学コンソーシアム間でのデータ分析・ニーズのマッチング
- 2) 島嶼地域の共通課題に関する社会実装型研究（沖縄型地域・コミュニティーデザイン等）の実践
- 3) 複数の大学間で定期的に複数の分野（異分野）を含む学際的なワークショップを開催し、共通課題・国際共同研究のシーズの洗い出し
- 4) 積極的な若手研究者・学生のインターンシップ、フィールド調査、ワークショップ

ブ等への派遣

- 5) 協定のライン化、共同研究相手、外部資金獲得等のつながりを見据えた交流相手の戦略的な交流協定の締結

\*協定のライン化：協力する研究分野等協定大学との連携や協定大学を通じた他大学との連携を見据えた協定を繋げて拡充する。

## (2) 沖縄や日本、世界で活躍できるグローバル人材の育成

IoT による世界の構造及びネットワークの変化、そしてそうした世界における AI、ロボット技術の発展による根本的な人間の役割の変化を前提とした、世界規模の教育改革を踏まえ、琉大版キー・コンピテンシーを創造性（仮称）、倫理性（仮称）、専門性（仮称）と定め、それらを有する「琉大型グローバルシティズン」育成を目的とし、コンピテンシー・センターを核としたプログラムを展開させる。

- 1) 多様な領域でグローバルに活躍するための琉大版キー・コンピテンシーの育成を目的とするコンピテンシーセンターの設置及び教育プログラム開発、実践
- 2) 大学のグローバル化と琉大型グローバルシティズン育成を結びつけ、機能させるためのグローバル・プログラム津梁の推進
- 3) 島嶼地域におけるリソースを最大限に活用するため、国内外のコンソーシアムと連携した ICT 教育の拡充
- 4) 中核組織の構築による交流協定の拡大、留学生受け入れの促進及び学生交流の活性化
- 5) クォーター型科目の活用による学生派遣・受入、海外インターンシップの拡充
- 6) 魅力ある大学院に向けた海外拠点と連携した現地研修等を含む高度専門教育プログラムの拡充

## (3) 沖縄県系人ネットワークとの連携

沖縄県、WUB (Worldwide Uchinanchu Business Network) 及び国内外の沖縄県人会と連携強化し、ネットワーク構築を図り、本学の強みとする。これらの団体や沖縄県との連携を強化し、本学の教育研究の可能性を広げるためにネットワークを構築し、その活用により本学の強みを深化させる。

- 1) WUB 世界大会や世界のウチナンチュ大会を活用した懇談会やシンポジウムの開催・琉球大学ブースの設置
- 2) WUB 会員企業での海外インターンシップ経験、海外文化研修参加学生と沖縄県人会との懇談会などの開催を通じた次世代の育成
- 3) 沖縄県人会等が派遣する沖縄スタディツアーへの協力（琉球・沖縄の歴史や言語・文化等に関するワークショップの開催等）

- 4) 沖縄県系学生の積極的な受け入れや県内他大学との単位互換協定を活用した沖縄県系学生への教育（琉球・沖縄の歴史や言語・文化等を外国語で教える）

#### (4) 「環太平洋大学コンソーシアム（仮称）」のネットワーク形成

本学が現在参加している複数のコンソーシアムを小さな輪と捉え、既存のコンソーシアムを戦略的に繋げていき、環太平洋大学コンソーシアムの形成を目指す。具体的には、済州大学、台湾大学、ハワイ大学、グアム大学、などの環太平洋島嶼地域の地域拠点大学との連携を強化し、さらにアジア太平洋島嶼拠点大学ネットワーク、RETI（島嶼大学間ネットワーク）等の蓄積してきた海外ネットワークの積極的な活用を図り、「環太平洋大学コンソーシアム（仮称）」を形成する。第3期中期目標期間中は既存の連携大学との関係を強化・深化しつつ、新たな連携先としてアジア・環太平洋地域の大学とネットワークを10校程度に拡大する。第4期以降は、アジア・太平洋地域以外の島嶼地域、さらには大陸系地域の大学と連携し、「琉大津梁ネットワーク（仮称）」（英語名称（仮称）は「University of the Ryukyus Global-Bridge Network (URGBN)とする」）への拡大を目指す。

- 1) アジア・環太平洋島嶼地域の大学を中心としたコンソーシアムの形成
- 2) コンソーシアム参画地域に共通する地域課題に関する共同研究の実施やシンポジウム等の開催
- 3) コンソーシアム内外への積極的な情報発信

#### (5) 戦略的な構想による海外拠点の設置

本学の海外拠点については、第3期中期目標・中期計画に掲げるアジア・太平洋地域の教育研究拠点となる大学の実現に向けて、平成28年度に台北、ハワイ、ラオスにサテライトオフィス等を設置した。今後は、既設海外拠点の活性化ならびに本学の国際的な教育研究活動をよりダイナミックに推進するため、アジア・太平洋地域を軸足としながらも、北南米、欧州等への展開を図る。また、拠点形成については、アジア太平洋地域等を中心として本学がこれまで築き上げてきた実績を基盤として、他大学の海外拠点との連携による拠点形成も射程に含める。

これらにより国際共同研究の増加、大学間学生交流の活性化等を達成する。

- 1) 長期ビジョンを視野に入れ、教育プログラムや共同研究等の推進を見据えた新規海外拠点の設置（主な観点として、足掛かりとなる本学の実績や当該地域に関するキーパーソン等）

フィジー：太平洋地域における中核となるフィジーに拠点を設置することにより、共通の特色や課題を持つ太平洋島嶼地域との教育・研究交流の展開を図る。また、他の太平洋島嶼国・地域との国際交流促進にも活用する。

ブラジル：第3期中期目標・中期計画には、沖縄県人系ネットワークとの連携促進を掲げており、南米で最大規模の県人系コミュニティのあるブラジルに拠点を設置することで、将来的に南米地域での交流推進の拠点とする。また、沖縄県やJICAとも連携し、南米地域との国際交流・国際協力事業の促進にも活用する。

ドイツ：欧州については、教育交流・学术交流促進のための長期的なビジョンを視野に入れ、教育の質保証や学生のモビリティ向上を図るボローニャ・プロセスの中核国であるドイツに設置し、高等教育連携や研究交流を促進する。

- 2) 既設の拠点（ハワイ、台北、ラオス）の実質的な整備ならびに活性化
- 3) 海外拠点オフィスを活用した新規事業（職員研修等）等の計画
- 4) 海外在住の本学卒業生及び本学留学経験者のネットワークの形成

## 国立大学法人琉球大学 中期目標（抜粋版）

### （前文） 大学の基本的な目標

#### 1. 琉球大学の目指すところ－Vision－

本学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である Tropical Marine, Medical, and Island Sciences (TIMES：熱帯島嶼・海洋・医学研究)の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指す。

#### 2. 長期ビジョンの実現に向けて－Mission－

本学は、草創期からの理念を生かし、沖縄や日本、世界に貢献できる教育研究拠点を形成する。

- ① 新たな「地（知）の拠点」として、沖縄や日本、世界に貢献できる人材を育成し輩出する。
- ② 「知の津梁（架け橋）」として、Tropical Marine, Medical, and Island Sciences の一大拠点となり、その成果を沖縄や日本、世界に還元し、平和的な多文化共生社会の実現に貢献する。

#### 3. 第3期中期目標・中期計画の方針－Action－

本学は、第3期中期目標期間において、地域活性化の中核的拠点となるべく社会変革にシなやかに対応できるイノベティブな大学としての歩みを加速する。

- ① 異なるものとの協働により、創造活動を生み出し続けるキャンパスを創出する。
- ② 「創造的な発想力」と、地域や地球規模での新たな課題に対して「果敢に挑戦する力」を持った人材を育成する。
- ③ 産学官連携と国際連携による組織的な連携を通じて多様な力を結集し、大学資源を有効に活用して、教育研究力をグローバルに展開する。

#### 4. 地域社会・国際社会への貢献－Outcome－

##### 【教育を通じた貢献】

国際的に通用する教育の質および学位の質を確保しつつ、諸学を往還する幅広い教養を基礎とし、高度な専門知識と課題探究能力を糧に世界で活躍・貢献できる人材を育成する。

##### 【研究を通じた貢献】

地域社会の持続的発展に必要な基礎的・基盤的研究を推進しつつ、地域特性を踏まえた

研究に基づく独創的な研究成果と新たな価値の創出、地域社会の発展に資する異分野融合や学際的な研究の推進を通じて、アジア・太平洋地域における中核的な学術研究拠点の形成を目指す。

**【社会・国際連携を通じた貢献】**

「ウチナーンチュ・ネットワーク」をはじめとするグローバル・ネットワークを活用し、産業界、行政機関ならびに国内外の大学・研究機関との連携を強化して、地域の活性化および国際化に貢献する。

**【大学ガバナンス】**

社会のニーズに対応するため、組織編成や財政基盤の強化、教育研究力の向上に資する取組を戦略的・機動的に展開し、自己点検・評価と外部評価を反映した大学運営を行う。